

日 販 協 近 畿 報

1. 世界に誇る戸別配達制度を堅持しわが国の政治・経済・文化の発展と民主主義の擁護に貢献する
2. 新聞の持つ公器性に基づき公正な販売を期する
3. 新聞販売店共通の目的である経営の健全化を追求する

日販協近畿報

https://nippankyo-kinki.com

一般社団法人日本新聞販売協会近畿
 大阪市北区天満4丁目14-19
 天満パークビル4階
 電話06(6450)5671/FAX06(6450)5672
 npk-kinki2@vivid.ocn.ne.jp
 発行責任者 小西 康弘
 広報委員長 岩田 達幸

全国本部に対し「定款に即した会員登録を」

「副理事長が理事長の任務を代行」決議



大寒波の中、38人が出席した2024年度第8回理事会（2月5日、大阪市北区・ガーデンシティクラブ大阪）

一般社団法人日本新聞販売協会近畿（略称「日販協近畿」水谷和郎理事長）毎日・浅香駅前は2月5日、2024年度の第8回理事会を大阪市北区のガーデンシティクラブ大阪で開いた。水谷理事長は今回も病気で欠席。理事長病欠対応を審議し、「副理事長が理事長の任務を代行する」を決議した。小西康弘副理事長（読売・柏原）が水谷理事長の任務を代行し、対外的には「主席渉外担当理事」となる。

この日、大阪は雪が舞い散るほど冷え込んだ。理事会の冒頭、挨拶に立った小西副理事長は「大寒波襲来の中ででの出席に感謝する」とねぎらったうえで、「節分の起源は古代中国。悪霊を追い払うための行事だ。家庭内に悪いものが入らないようにし、良いものを食べて健康を祈るといふもの。新しい年の幸せを願う」と挨拶した。

議長に大塚玲専務理事（日経・丸条）を選出。はじめに小西副理事長が公益社団法人日本新聞販売協会（以下、全国本部）の常務理事会（1月20日、東京）の内容を報告した。

全国本部が推進する電動バイクのレンタル事業について、小西副理事長は「東京都の補助金打ち切りにより価格が1万7千円となった。大阪

においては納車費用として別途2万8千円必要となる。また、万が一、レンタルした電動バイクが全損した場合、34万円の負担が発生する」と説明した。同じく全国本部が進めている「販売店従業員の中症アンケート」が新聞協会を通して全系統の新聞販売店を対象に行われるとした。

また、常務理事会の席上、小西副理事長が最賛対応について「近畿は2024年8月の公明党政策要望懇談会で最賛対応を初めて認識した。しかし、2023年12月に国は全業界団体に対して最賛対応のフォローアップを行うよう要請。経産省は全国本部に要請したと言っている。最賛対応で決定的な出遅れがあった。全国本部は会員に対してどのような説明をしたのか？」と問いただしたところ、全国本部から説明はなかった。

さらに常務理事会で小西副理事長は、日販協の組織問題（地区本部は全国本部と別組織のため公益社団法人を名乗れない等）について「組織問題は全国本部が公益社団法人に移行する際に議論すべきだった。日販協近畿の会員がそのまま公益社団法人日本新聞販売協会の会員になるわけではない」と指摘し、定款に即した会員登録（本人申請）を求めた。

（2面へつづく）

販売店の経営基盤 改善に向けて活動

日販協近畿 2024年度の第8回理事会



社会貢献担当の畑善章専務理事



広報担当の岩田達承専務理事



理事長の任務を代行する小西康弘副理事長



折込担当の大塚玲専務理事



組織力向上担当の辻昭彦専務理事



法規公正担当の保田満範専務理事

(一面からのつぎ)

各委員会・各支部から活動報告があった。

会員メーリングは95%

新・広報スタート

広報 岩田専務理事

事業委員会 折込担当の

岩田達承専務理事(朝

日・千里山)は、高卒を

作成について、メールア

ドレスは、物集まった

と、今後の取り組みを

として「選考委員会」の招

集通知、議決権行使の電

子投票が可能となる。L

INER公式アカウントで

も発信する。会員と双方

向にコミュニケーション

ができるようにしてい

く。5月20日の通常総会

でデモンストレーション

を行う予定と説明した。

事業委員会 社会貢献担

当の畑善章専務理事(神

戸・春日)は、この春に

東大阪市教育委員会と各

系統社の間で、市内各学

校の新聞購読を一括契約

(買断方式)する報告。

国が決定した「学校図書

館図書整備等5カ年計

画では、地方財政難

が講じられている。畑専

務理事は、「各自自治体で

新聞購読の予算が確保に
使われるために、情報交
換を密にしていこう」と
呼びかけた。

「1支部・1本店」
来年度から施行
組織力向上 辻昭彦専務理事
事業委員会 組織力向上
担当の辻昭彦専務理事
(京都・羽田)は、複
数支部で店舗を展開する
会員について「会員に
とっては店舗も本店扱
いとす。1支部・1本
店をやっていく」と説明
し、複数専売の会員につ
いては「会員自身がメイ
クの系統を選択し、メイ
ク」だと述べた。

最賃対応と休刊日の
増設で五日会に要請
労働環境 小西副理事長
業務委員会 労働環境担
当を務める小西副理事長
は五日会販売局長(香
川)に対して文書で最賃対
応、休刊日増設を要請す
るとした。寒波の中、事故

労務環境の改善に対
する社会の動きは中小
零細企業の経営者に対
して厳しい。収益を
拡大し、それを従業員
に還元するのが本筋だ
が、大変困難な状況
だ。このような中で募
集をかけても人は来な
い。
「週1回の休刊日」
は「週1回の休刊日」
だろう。さらなる合理
化のために「預け合
い」も必要だ。1店
でも多くの店が生き残る
ためにしっかりと声をあ
げよう。

月16日に献血活動、昨年
より1万枚多い、チラシ
9万枚を配布する。奈
良・三重支部は献血活
動を3月18日に実施し、同
16日にチラシ5万枚を配
布。また、同支部は折込
手数料について協議し、
今年10月の改定を目指
す。滋賀支部はなぞ
う犯罪・滋賀安全なま
つくりの実現県民会議
に参加し、加入を承認
された。業務を通じて見
守り活動に貢献してい
く。恒例の代表委員は小
谷浩一(担任理事、読売・西
大津)が務めた(右項)。
締め切りの挨拶は、高
橋宏樹(担任顧問、前理
事長)は理事長の職務につ
いて「ストレスフルな任
務だ。心労が募り、体調
不良になることもある」
と語った。また、目の前
の課題を一つひとつク
リアし、次につなげる
しかないと呼びかけた。
次回理事会は3月5
日に同所、ガーデンシ
ティ、クラフ大阪行われ
る。通常総会も同所、5
月20日に開催される。



代表意見
1店でも多く
生き残るために
小谷常任理事